

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和元年度第3回(第33回) 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和元年12月17日(火) 午後6時45分から午後8時40分		
開催場所	川西公民館 3階 集会室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、横谷弘務、加門文男、釜本孝彦、乾美由紀、延命寺陽子、金剛丸朋子、田中真優、中村佳子、名木田絢子、西村牧子、堀田大樹、三善知子、山澤剛、吉尾豊	
	その他		
	事務局	総合政策部副部長、参画協働課長、同課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況について (2) 各部会からの中間報告について 3 その他 4 閉 会 		

18 : 45 ~

1 開 会

事務局進行。

2 議 事

(1) 平成 30 年度参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況について

○ 事務局

- ・ 9 月全体会、11 月庁内会議「協働推進本部会議」をふまえて、「平成 30 年度参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況 資料 1 」に基づき、説明。

各手法別に前年実績の盛り込み

今後の取組についてという市方針 (p.10) を挿入

- ・ 来年度、下記の点を課題として取り組む。
 - 長期 (3~5 年程度) のトレンドを入れる
 - 評価を入れる
 - 各取り組みの方針や方向性をいれる

○ 決定した事項

- ・ 平成 30 年度実績については、案通りとする。
- ・ 事務局で、現在の項目などを見直し、来年度の早い段階で、推進会議に諮る。

2(2) 各部会からの中間報告について

○ 今後のスケジュールに関して (事務局説明)

- ・ 当初のスケジュールでは、12 月に意見発表、1 月~2 月で意見の見せ方を考え、3 月に一定の成果物を提出いただく予定であったが、各部会では活発な話し合いが行われており、委員からも、時間をかけ議論を行いたいとの提案があった。

- ・ 事務局として年度単位を一区切りと考えていたが、委員任期は6月までであることから、「年度内に話し合い・意見の集約」を行って頂きたい。そのうえで、6月までに一定の成果物を提出して頂きたいと考えている。

事務局案のとおり、スケジュールが変更となった。

○ A 部会からの報告

(報告)

- ・ 別添 A 部会資料(トラップカード)による説明
- ・ 問題意識として、紙の報告書を本当に読んでもらえるのかという点がある。活動へのきっかけづくりをテーマとして、トラップカードのサンプルを2種類作成した。
- ・ ざっくりと～歳代ではなく、ペルソナ(仮想人物)を設定し、明確に具体的なメッセージが届くように工夫した。
- ・ このカードを、かるたのようにどんどん増やしていきたい。リングをつけて、求人票のようにする。そして、何か活動したい人や悩んでいる人に、ぺらぺらとめくってもらい、「お！これは私にあてはまる」と感じてもらえる内容を意識した。
- ・ 活動に参加したい人がどこに行ったらいいのかわからないケースが多い。また、取組みたい内容も、すでに他のグループが行っているケースもある。そのため、カードには具体的な施設名や団体名を記載することが必要だと感じている。

私たち部会はこのように考えており、団体等としてどう考えるかヒアリングを行ってもよいのでは。

- ・ 活動している側も、自身の活動をみんなにPRできていなかった。
- ・ 見せ方が先行しているように見えるかもしれないが、「見せ方」とはカードという形式だけでなく、「運用方法の提案」でもある。実際に誰がどのようにこのカードを活用していくのも議論していく必要がある。

○ B 部会（ポップコーン部会）からの報告

（報告）

- ・ 別添 B 部会資料（B 部会提案書）による説明
- ・ 若者世代だけでなく、多世代とし、様々な世代を巻き込むことが大切
- ・ 大学での議論の内容に沿うような充実した内容となっている。
- ・ ネーミングひとつとっても、「おしゃれ感」が重要。たとえば、リアル防災訓練と称して、夜に訓練を行うことで、興味を引くことができる。
- ・ 自分の住んでいる地域のことを自分が知らないと改めて実感した。
- ・ 大切なことは、以下の4点である。 どのように伝えるか、 組織のあり方を含めて、活動の内容、 組織・役職の呼称（単に、自治会・会長などでは堅いイメージ）、 他団体・グループ、個人との連携。実際に私が所属する自治会でも、「班長会議」ではなく「ぶっちゃけ自治会どうよ」というテーマでワークショップ形式も取り入れて行ったところ、7割以上の班長が参加し、踏み込んだ話し合いができた。
- ・ 入り方だけでなく、受け入れ方も大切。

○ 意見交換・質疑応答など

- ・ トラップカードは、実際に使える内容。コミュニティには、様々な構成団体があり、それぞれの団体で取り入れたい。
- ・ 若者のなかには、大人が考えるまちづくりが「とてもダサいもの」として受け入れないケースもあるという。いかに敷居を低くできるか。
- ・ A 部会は「見せ方」、B 部会は「行動指針」が前面に出ているように見えるが、実際には根幹となる部分は同一。
- ・ B 部会の行動指針にも、A 部会のこれまでの議論の内容を盛り込みたい。
- ・ 各部会の議論が別方向になってはいけないので、今後も意見交換を行う場を設けるべきではないか。3月までのアウトプットの提出内容などの足並みを揃えてはどうか。
今年度の推進会議は、自由に議論を行うことがテーマとなっており、両部会も力

ラーを大切にすべき。両部会の進捗状況については、議事録の確認や全体会(3月)で共有できればよい。

○ 岩崎会長

- ・ 地方創生の取組の一環として、高校生が地域に入ることを求めている。(探求の授業)川西市でも、小学生・中学生を対象とした地域活動は活発に行われているが、次の段階として、どのように高校生を巻き込むかが大切。やらされ感が出てはいけない。地域に実際に入り、自分たちの地域のことを自分たちで考える経験や素養があってこそ、18歳選挙権も活きるもの。
- ・ 1～2月の部会では、さらに議論を深め、3月の全体会では両部会の内容をまとめる。行動指針で文字に起こす場合には、「これだけは外せない」ポイントが明確となるよう工夫が必要。

3 その他

事務局

- ・ 次回の全体会、部会の日程などの確認。

4 閉 会